

健全化判断比率から見る府中市の財政

4つの財政指標

その3 実質公債費比率

平成27年度の実質公債費比率と基準

■府中市の比率 11.1%

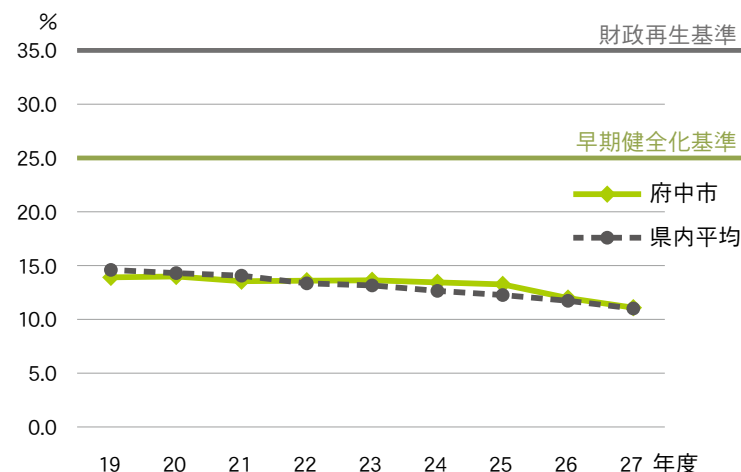
早期健全化基準数値…25.0%

財政再生基準数値…35.0%

過去の比率と比較すると

府中市では、平成19年度決算から健全化判断比率を公表しています。比率がどのように推移しているか見てみましょう。

実質公債費比率は、早期健全化基準を大きく下回っており、横ばいから近年は減少傾向になっていることが分かります。また、その数値は県内平均値とほぼ同程度です。



借入金の返済額の大きさを指標化したもので、府中市の一般会計の標準的な支出の何%が、借金の返済に充てられているかを示します。高くなれば、資金繰りの危険度が増します。

当然、借金の返済が増えれば数値は上がり、減れば下がります。

平成26年度は、12.0%のため0.9ポイント改善しています。

4つの財政指標

その4 将来負担比率

平成27年度の将来負担比率と基準

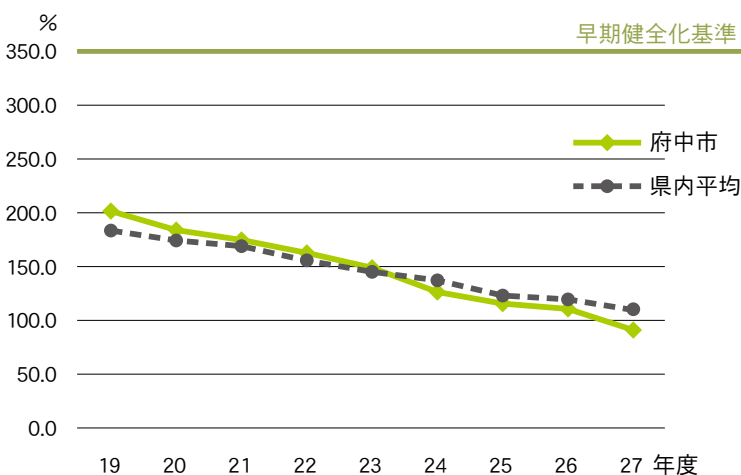
■府中市の比率 91.2%

早期健全化基準数値…350.0%

財政再生基準数値…なし

過去の比率と比較すると

将来負担比率についても早期健全化基準を大きく下回っており、年々減少し続けています。その数値は県内平均値と比較するとほぼ同程度ですが、近年は県内平均値を下回っています。



借入金や将来に渡り負担していく可能性がある負債の大きさを指標化したもので、将来財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示すものです。

借金や公営企業への繰り出し、退職金見込額が増えれば数値が上がり、借金が減ったり、基金が増えれば下がります。

平成26年度は、110.7%のため、19.5ポイント改善しています。

4つの財政指標

その1 実質赤字比率

平成27年度の実質赤字比率と基準

■実質赤字比率 - %

※実質赤字額がないため「-」で表示。

早期健全化基準数値…13.06%

財政再生基準数値…20.00%

最も主要な会計である一般会計などに生じている赤字の大きさを指標化したもので、財政運営の深刻度を表したものです。歳入総額と歳出総額（翌年度に繰り越すべき財源を除く）の差し引きがマイナスになると、その額が実質赤字額となります。

平成26年度も、実質赤字額はありませんでした。

4つの財政指標

その2 連結実質赤字比率

平成27年度の連結実質赤字比率と基準

■連結実質赤字比率 - %

※連結実質赤字額がないため「-」で表示。

早期健全化基準数値…18.06%

財政再生基準数値…30.00%

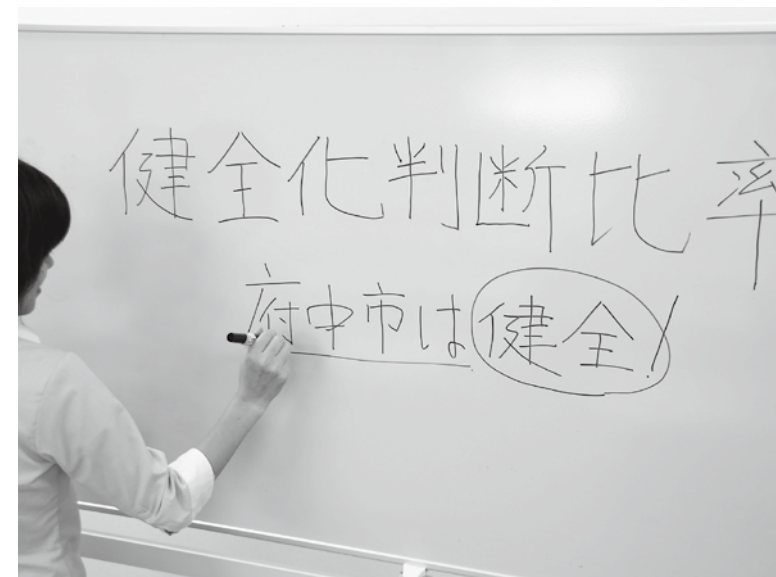
水道事業や病院事業などの公営企業を含んだ、全ての会計に生じている赤字の大きさを指標化したもので府中市全体の財政運営の深刻度を示すものです。

簡単に言うと、府中市の会計を全て足して、赤字があるかどうかです。

平成26年度も、連結実質赤字額はありませんでした。

健全化判断比率とは、地方公共団体の財政状況を客観的に表し、財政の早期健全化や再生の必要性を判断するためのものとして、毎年の公表が義務付けられた4つの財政指標のことです。

この健全化判断比率のうち1つでも早期健全化基準以上（イエローカード）となった場合は財政健全化計画を、財政再生基準以上（レッドカード）となった場合は財政再生計画を策定し、財政の健全化を図らなければなりません。



平成27年度決算に基づき算定された健全化判断比率は全て基準を下回り、前年度よりもさらに改善することができました。しかし、地方自治体財政を取り巻く環境は依然として厳しいことから、今後も引き続き行政改革に取り組んでいく必要があります。